

セクシュアリティ再認装置としてのアダルトビデオ

奥田 さやか

0. セクシュアリティ再認装置としてのアダルトビデオ

20世紀においては、性的であることと生きることが同一の意味を為しており、そして性に関して語ることは、もはやタブーではなくなってきた。その意味で性の解放が進んだと言えるであろう。セクシュアリティは、重要なところに位置づけられる。セクシュアリティの近代を探るためには、ポルノグラフィ⁽¹⁾を題材とすることは不可欠であると言える。なぜなら、特に、男性のセクシュアリティにポルノグラフィが多大な影響を与えているからだ。男性の性欲を刺激し、勃起させ、オナニーへとかきたてる商品化された性の世界、すなわち、ポルノグラフィという「性欲の巨大市場」として、アダルトビデオが存在している。他のポルノグラフィのメディア（小説、マンガ、グラビア）と比べて、アダルトビデオは近年めざましい成長を遂げている。そして、現在のような巨大市場へと発展していったのである。ポルノグラフィのなかでもアダルトビデオを中心に上げたい。アダルトビデオのれきしの新しさと、映像メディアとしての特性から、他のメディアより特徴的であると思われるからである。アダルトビデオは、主として青年男性がオナニーをするための道具、あるいは性行為のマニュアルとされている。『性への自由／性からの自由』において、赤川は、以下のように述べている。

アダルトビデオにおける性的「多様性」は、受け手に対して性欲の再認を促すための選択肢を提供しているのではないだろうか。つまりAVオナニー空間⁽²⁾は受け手であるヘテロ男性に対して「おまえはどのような性行為を好むのか、どのような性欲を持った人間なのか」といった問いかけをつねに孕んでいるということだ。そして受け手は、立つ／立たないを具体的な指標として自己の性的志向のありかを否応なく再認することになる。…（中略）…アダルトビデオは自己がいかなる性的人間であるかの「問いかけ—再認」の場として、すなわちイデオロギー装置として成立しているのかもしれない。

[赤川, 1996 : 186]

つまり、アダルトビデオをみることによって、勃起するか否かがわかり、そうすることで、受け手であるヘテロ男性に、自分自身の性欲は、どのようなものであるかを知らしめるのである。もっと具体的に言うなら、自分がどの場面におい

て勃起したのか、どういうシチュエーションを好むのか、ということである。そのために、アダルトビデオには、性的「多様性」があるのだ。性的「多様性」を用いることによって、アダルトビデオは、セクシュアリティ再認装置として存在しているのである。性的「多様性」というものを具体的に述べると、女優のコスチュームの多様性、性行為の多様性、出演女優の多様性などがある。そのようなものの一部を挙げてみる。思い浮かぶだけでも、女子高生、看護婦、スチュワーデス、秘書、熟女、女教師、未亡人、近親者、人妻、サディズム/マゾヒズム、レイプ、スカトロジー、レスビアン、獣姦などがある。これらのなかでも近親相姦を取り上げ、近親相姦もののアダルトビデオが、セクシュアリティの再認装置として、どのように構成されているかを画像トランスクリプトも交えながら、検証していきたい。

1. 近親相姦表示テクニック

アダルトビデオ⁽³⁾のなかで、ただ男と女が性行為を行うだけでは、その2人の関係がどうであるかはわからない。カップルかもしれないし、見知らぬ者同士かもしれない。私たちがそのアダルトビデオをみて、近親相姦であるとわかるのはなぜか。確かに、アダルトビデオのパッケージには、近親相姦ものであるような表示がなされている。しかし、アダルトビデオの画面上において、誰の目からも明らかに近親相姦でありうると表示されるには、作り手の側のテクニックとして、どのようになされているのか。近親相姦を表示するテクニックとして以下の2つが挙げられる。

《テクニック1 近親者らしさの表示》

生活上の内実を明らかにすることにより、それぞれの人物が近親者であるということをアピールする。つまり、兄なら兄らしさ、母なら母らしさをアピールすることにより、ただの男と女でないことを表示している。

《テクニック2 愛情の表示》

近親者の間には、もともと家族愛といわれるようなイデオロギーが、社会通念として存在している。近親相姦であることを表示するためには、そのような家族愛とは異なる愛情が、アダルトビデオのなかの2人の間に存在しているということ、受け手にわからせる必要があるのである。

アダルトビデオにおいて、実際にこれらのテクニックがどのように使われているのかを、その事例⁽⁴⁾⁽⁵⁾を以下に挙げていきたい。

まずは、《テクニック1》について画像トランスクリプト（事例I⁽⁶⁾：断片1⁽⁷⁾）を見てみよう。

事例I：断片1（0：00：54～0：01：45）

下下下
J： (2.0)は：：い、なに

?
↑①

F： (ドアの向こうから)

M： ジョーク：ん、ちよっとここ開けてちよ：だ：い。

【ドアの方へ歩き、ドアを開けてあげて、Mが部屋に入ってからドアを閉める】

ドドドドドドドドドドドドドドドドドMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMドドドドドド

J:

【読んでいた本を隠し、何もなかったように座る】

本本本本本本本本本本本下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下

F: (12.0)

【飲み物が載っているお盆を持って部屋に入る】

FFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFF

M:

【歩いてもとの場所に座る】

ドドドドドドドドドドドドドドドドド中中中中中中中中中中中中中中中中

J:

下下下下下下下下下下下下下下下下下MM下下下MM下下下下下下下下下下下下下下下下

F:

あ、おじゃましています。

↑②

【テーブルのところでかがむ】

FFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFMMMM

M:

こんにちは(2.0)はい、灰皿

【座る】

中中中中中中中中中中MM,...下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下下

J:

°サンキュ°

MM

F:

あhhすみません。

↑③

【飲み物を配っていく】

FFFFFFFFFFDD

M:

(4.0)これ足りなかったら言って下さい、まだむこうに

↑図1

下下下下下下下下??

J:

nod

下下下下下下下下??,...下

F:

いや: :やばいっす。

DDDDDDDDDDDDDDDEFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFFF

M:

ありますから。(2.0)どう, 単位とれそうなの。(3.0)

【飲み物

?????下下下下下下下下下下MMMMMMMMMMMMMMMMMMMMDDDD

J : はhはh

下下,,... MMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMMJ

F :
(6. 0)

【部屋を出ていく】

JJJ

M : (1. 0) 二人揃って留年なんてしないでよね、ジョーくん。

↑④

をスプーンでかきまぜる】

DD

J : は、そうかな。

↑⑥

JJJ

F : チョーきれいだよな、おまえのママって。

↑⑤

*登場人物や事物の紹介

J…息子

F…息子の友達

M…Jの母親

下…下

ド…ドア

本…本

D…飲み物

?…不明

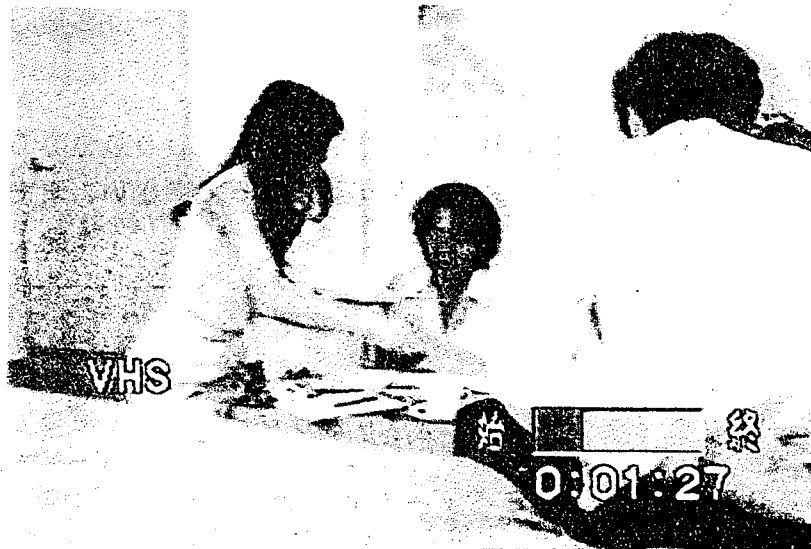


図1 MとFに飲み物を配っているところ

【Yをバットで殴りながらも、抵抗されたりするので、

YY

B: =なんだと もうふざけんじゃねえよ んのヤロー:: んへへへ

WW

S:

【Bに殴られながらも、抵抗したりするので、砂浜に

BB

Y: やりたくない=

砂浜に転げる。海の中に入っても殴り続ける】

YY

B: んあ(.) んあ(.) = んあ(.) んあ(.) んあ(.) = あ(.) =

【泳いでいたが、2人の乱闘に気づき、浜辺に戻って

WWWWWWWWWW,.. BYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBY

S: りんたろう:::

転げる。海の中に入っても殴られている】

BB

Y: =あh =あh =あh

YY

B: あ(.) あ(.) = あ(.)

きている】

【Bに駆け寄りYから引き

BYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBYBBBBBBBBBBBBBBBB

S: りんたろう:::(2.0) やめなさい

BB,..

Y: =あh

【それでもYに向かおうとする】

YY

B: 離せよねえさん、汚ねえよ、

↓①

離す】 【Bを捕まえている】

BB

S:(4.0) はh(.) はh(.) はh(.) はh(.)

SBS

Y:

YYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYY??????????????????
 B : こんなおじんにやらせてんのかよ : =
 BBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBBB??????????????????
 S : =何よその言い方あたしが誰とやろうとあんたに
 SB
 Y :

 ??YYYYYYYYYY
 B : =そうかよ、オレには関係ねえのかよ : : =
 ??BBBBBBBBBB
 S : 関係ないでしょ : : = =そうよ関係ないわ、
 SBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSBSB??????????????
 Y :

 YYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYYY,.. SSSSSSS
 B : =バカヤロー
 BBB
 S : おじんだってその辺の犬にだってガバガバやらしてあげるわよ=
 ???
 Y :

*登場人物
 B...Sの弟
 S...Bの姉

Y...Sと不倫している中年男性
 BY...BとY BとYは乱闘しているので、2人を1つの光景として扱った
 SB...SとB BY同様にSとBは言い合いをしているので2人1度に目にはいるため2人で1つの光景として扱った

これは、姉と不倫している中年男性に嫉妬心を抱いた弟が、力尽くで別れさせようとする場面である。弟は、大好きな姉を盗られると思い、その中年男性に嫉妬した。家族内においても、時折、嫉妬というもののは発生する。例えば、兄と妹がいたとする。兄に彼女ができたときに、兄を盗られたような気になるという話は、よく耳にする。そのように考えると、断片2での、弟の行動は嫉妬をそのまま行動に移したと言えなくもない。しかし、家族内における嫉妬ならば、あのような過激な行動に出るであろうか。やはり、弟のあの過激な行動には、家族内における嫉妬では片付けられない別の感情、つまり、姉への愛情が裏付けられるのではないかと思われる。↓①を見るとはBは、Yに執拗に執着しており、Sが押さえようとしてもYに向かっていこうとするのである。その執拗さは、通常の家

族以上の感情、つまり、姉への愛情が、Bのなかには存在していることを示している。

ここまでの検証において、以下のことが言えるのではないだろうか。アダルトビデオにおいて、近親相姦テクニックを駆使し、そこに登場する男女の関係が近親者であり、なおかつ少なくとも一方が、家族以上の特別な愛情を持っていることにより、そのアダルトビデオを近親相姦であると表示しているのである。そして、アダルトビデオで、近親相姦表示テクニックが表示される場面にも特徴がある。それは、性行為が行われる場面以外であるということである。確かに、アダルトビデオで、性行為の間に「お兄ちゃん」などと呼びかけがあれば、それは一目瞭然である。それだけでなく、性行為が行われる以外の場面、つまり、生活の内実を表している場面や、あらすじ的な場面において、近親相姦テクニックを駆使し、近親相姦ということを表示することにより、性行為の場面をも近親相姦であると表示することが可能になるし、リアリティあふれるものになるのだ。

結局、近親相姦表示テクニックを駆使して、リアルに描き出されたアダルトビデオは、言うまでもなくヘテロ男性の性欲をよりかきたてるように作られているのである。

2. アダルトビデオはある意味道徳的である。

結論からまず言ってしまうおう。アダルトビデオは道徳的である。なぜそのようなことが言えるのか。以下において検証していこう。

事例Ⅲ⁽⁹⁾の1:23:24において兄は妹に①「たまよ(妹の名前)ごめん、ごめんな」と、1:23:35においては②「オレってけだものだよな、おまえにこんなこと」と言っている。2人は、同意の上で性行為を行っている。①の発言の意味することは、兄と妹なのに、性行為に及んでしまったために、兄は妹に謝っているのである。また、②の発言は、兄なのに妹に対して勃起し、性行為に及んでしまった自分は、けだものだということを意味しているのである。①と②の発言が出たのはなぜだろうか。それは、兄と妹は性行為に及んではいけないという道徳があり、それに自分たちが反してしまったからである。アダルトビデオの中の人物に、このようなことを発言させるということは、ある意味道徳的ではないだろうか。アダルトビデオで行われている性行為は、道徳的でないものがほとんどである。それらの性行為が道徳的であるか否かは実は問題ではないのである。道徳的なことに反しているのだということや、こういうものが道徳だということを表示することこそが有意味なのだ。その点において、私は、アダルトビデオもまた通常の映像メディアと同等に道徳的であると主張したいのである。先に示した事例においても、兄と妹は性行為を行わないものという道徳を表示している点で道徳的ではないかと思うのである。

しかし、道徳に反することすら、私たちにとって理解可能なのはなぜか。先と同じ事例Ⅲの1:23:48において妹は「お兄ちゃん、私たちいいんだよ（性行為を行っても）本当の兄妹じゃないんだよ」と発言している。ここから言いたいことは次のようなことである。道徳に反して、2人は性行為を行っているが、実は、2人は本当の兄妹ではなかったという落ちを付けることによって、私たちにも理解可能なようにビデオは作られている。もっと他の事例を挙げてみよう。事例Ⅰの場合を考えてみる。事例Ⅰは母と息子の近親相姦であった。0:12:31において、息子は「ママは何で再婚しなかったの」という発言から、父がおらず、母一人子一人であることがわかる。また、事例Ⅱは、姉と弟の近親相姦であった。このなかでも、姉弟の両親はスーパーのチェーン店を経営しており、多忙であった。だから、今まで姉が弟の世話をしてきたのである。これら2つの事例からは以下のようなことが言える。つまり、2人の結びつきが強くならざるを得ないように描くことによって、近親相姦が起きても私たちが納得するかもしれないような余地を与えているのだ。このように作られることによって、アダルトビデオは道徳に反することも私たちにとって理解可能な図式として描き出すのである。そして、近親相姦ものアダルトビデオにおいては、道徳に反するということを逆にアピールすることで、道徳に反するスリルを描き出し、ヘテロ男性の性欲をかきたてるのだ。

3. おわりに

ここまでの展開をまとめておこう。第1に、ヘテロ男性の性欲をかきたてるために、近親相姦表示テクニックを駆使することにより、近親相姦ものアダルトビデオは近親相姦であることをアピールし、リアリティを持たせている。第2に、近親相姦ものアダルトビデオは、道徳的であること、道徳に反することを表示することにより、道徳に反することのスリルを描き出しヘテロ男性の性欲をかきたてるように作られている。さらに主張したいのは、近親相姦ものアダルトビデオがやはりセクシュアリティ再認装置として成り立っているということである。近親相姦ものアダルトビデオを鑑賞・視聴することによって、ヘテロ男性は、勃起するか否かがわかり、自分自身の性欲がどのようなものかを知るのだ。例えば、母とか姉というような年上の女性との性行為を好むとか、アダルトビデオのなかでも近親相姦ものはいまいち好きにはなれないというようにである。前述したとおり、性的「多様性」の一種として近親相姦ものアダルトビデオは存在している。そして、近親相姦ものアダルトビデオはセクシュアリティ再認装置として成り立っている。それは、近親相姦表示テクニックの駆使と、道徳の表示が存在するからにほかならない。

注

(1) ポルノグラフィを語る上で、ポルノグラフィの定義やポルノグラフィの「レッテル貼り」問題は、常に議論に上る。赤川は、こららの議論においての自分の立場として、以下のように述べている。

私は、ポルノグラフィの定義に関しては、「性欲を喚起する」とか「マスターベーションの道具として利用される」という側面を強調する。…(中略)…

また、ポルノグラフィの「レッテル貼り」問題に関しては、何がポルノグラフィであり、何がそうでないかを観察者が一義的に決定することはできない、という立場をとる。[赤川, 1996: 26]

私はこの論文において、赤川の主張をもとに論述していきたい。そのために、ポルノグラフィの定義やポルノグラフィの「レッテル貼り」問題においても、赤川の立場に同調したいと思う。

(2) アダルトビデオは、オナニーの道具として、あるいは模範にすべき性行為のマニュアルとして存在している。そして、一人部屋もしくは、一人しかそのいない室内において、鑑賞・視聴されるポルノグラフィとして、アダルトビデオは位置づけられる。こうしたアダルトビデオとその受容のあり方を「AVオナニー空間」と呼ぶ。[赤川, 1996: 178]

(3) 今回、分析の素材として、アダルトビデオ、Vシネマ、ロマンポルノを採用した。Vシネマやロマンポルノは、アダルトビデオと呼んでよいのかということが問題になるかもしれない。しかし、性器を露出するか否かは問わず、性描写が何カ所か含まれているという点で、共通している。したがって、分析の都合上、Vシネマ・ロマンポルノもアダルトビデオと呼びたい。

(4) この論文には、3つの事例を素材としている。1つ目は母と息子、2つ目は姉と弟、3つ目は兄と妹である。近親相姦もののアダルトビデオには、他に叔父と姪、父と娘などがあるが、入手の都合上、または流通している数を考えて上記の3つの事例に絞った。

(5) 3つの事例すべてに見受けられたが、紙幅の都合上、テクニックが顕著に表れている事例のみ紹介したい。

(6) 事例1は母と息子の近親相姦もののアダルトビデオである。

(7) 断片1及びこれ以下に使われるトランスクリプト記号を以下に示す。

= 言葉と言葉の間、もしくは行末と行頭に置かれた等号：途切れなく

言葉がつながっていることを示す。

: : コロンの列：直前の音が延ばされていることを示す。

(数字) 丸括弧で括られた数字：その数字の秒数だけ沈黙のあることを示す。
0.2秒以下の短い間合いは(.)という記号で示される。

【 】 すみつき括弧：参与者の発話以外の諸行動の一部を示す。

《 》 二重括弧：補足事項

n o d : うなずきを示す。

h h h : 呼気音を示す。

A A A 各発話の上に置かれた同一文字の列：その文字(A)で示された特定の事物もしくは、人物に視線もしくは顔が向けられていることを示す。

... ピリオドの列：動作が始まりかけていることを示す。

,,, ガンマの列：動作が終わりかけていることを示す。

。° : これで囲まれた箇所の音が小さいことを示す。

☆☆ アンダーライン：当該箇所の音が大きいことを示す。

(8) 事例IIは姉と弟の近親相姦を描いたロマンポルノである。

(9) 事例IIIは兄と妹の近親相姦を描いたVシネマである。

参考文献

赤川学, 1996, 『性への自由/性からの自由』, 青弓社

参考ビデオ

「女子高生物語 淫らな果実」, 1998, 東映

「実際にあった再現ドキュメント 母と息子」, ホットピクチャーズ

「姉日記」, 1984, につかつ